

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん患者に対する在宅医療の実態とあり方に関する研究
分担研究報告書

「在宅輸血について」

研究分担者 岩本彰太郎 三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター
センター長
西川英里 名古屋大学小児科・小児がん治療センター
病院助教

研究要旨

終末期の小児がん患者が安定した在宅生活を継続するためには、在宅輸血は重要かつ不可欠な医療である。しかし、終末期の小児がん患者のなかでも、造血器腫瘍群では、輸血頻度が多く、在宅移行を困難にしていることも事実であり、早期に在宅輸血の手引書（提案書）の作成が必要と考えた。

今回、大隅班から小児がん拠点病院及び小児がん終末期医療経験の豊富な在宅療養支援診療所からそれぞれ分担者を選出し、全国アンケート調査用紙を作成した。来年度以降、小児がん拠点病院・連携病院及び在宅支援診療所を対象とした本邦初の在宅輸血の現状と課題を把握する調査を実施する予定である。

A. 研究目的

終末期の小児がん患者（0～18歳）が在宅医療を選択した際、自宅で輸血療法が受けられず紹介元施設や地域基幹病院へ短期入院・通院して施行されているケースがある。一方、小児の在宅医療を請け負う診療所、訪問診療チームでは在宅での小児患者における輸血施行実績は少ないと思われるが、その実態は十分把握されていない。

終末期の小児がん患者において、輸血療法の適応、安全かつ最も負担の少ない形での施行場所は個別に異なると考えら

るが、患児の状態や病院から自宅までの距離などによっては在宅での輸血が最適な条件となる可能性のある症例が一定数存在すると予想される。

このため小児がん拠点病院から在宅医療へ移行した終末期小児がん患者の輸血療法の実態と、小児患者への在宅輸血実施経験のある訪問診療所での在宅輸血療法の実態を調査し、在宅輸血の課題を抽出する。抽出された課題に基づき、在宅輸血の適切な方法を検討することで、終末期小児がん患者への安全な在宅輸血の提案を行う。

B. 研究方法

本年度は、本研究に関わる分担研究者を大隅班から選出し、研究計画の立案を行った。来年度以降は、小児がん拠点病院・連携病院と、終末期小児がん患者の訪問診療実績のある施設に2020年4-5月中にアンケート調査を行い、小児がん患者における在宅輸血の現状を把握し抽出した課題を6月の第3回班会議までにまとめ、在宅輸血の手順について大まかなたたき台を提案する。

第3回班会議でたたき台に対し意見をいただき、7月中をめどに暫定的な小児在宅輸血に対する提案書を作成し、再び拠点病院と訪問診療所にアンケートを実施し内容につき意見をいただく。9月中を目途にアンケートを集計し、10月の第4回班会議で集計結果を報告、在宅輸血に対する提案書最終案作成のため意見をいただく。

2020年度内を目途に終末期小児がん患者の在宅輸血に対する提案書最終案を作成し、2021年第5回班会議で報告する。

(倫理面への配慮)

本年度は特記事項なし

C. 研究結果

本年度、大隅班から来年度以降に本分担研究に関わる医師を以下の要に選出した。

小児がん拠点病院から)

・西川英里・名古屋大学小児科・小児がん治療センター・病院助教

在宅支援診療所から)

・前田浩利・医療法人はるたか会・理事

長/医師

・紅谷浩之・オレンジホームケアクリニック・理事長/医師

・星野大和・あおぞら診療所新松戸・医師

これらの分担者と、小児がん患者における在宅輸血の現状把握と課題抽出に繋がるアンケートを作成した。来年度には、小児がん拠点病院・連携病院と、終末期小児がん患者の訪問診療実績のある施設にアンケート調査を行い、小児在宅輸血に対する提案書の作成に繋げていく。

D. 考察

終末期の小児がん患者が安定した在宅生活を継続するためには、在宅輸血は重要かつ不可欠な医療である。

しかし、終末期の小児がん患者のなかでも、造血器腫瘍群では、輸血頻度が多く、在宅移行を困難にしていることも事実であり、早期に在宅輸血の手引書(提案書)の作成が必要と考える。

そのために、まず終末期小児がん患者に実施されている在宅を含む輸血状況を小児がん拠点病院・連携病院及び在宅支援診療所などを対象に実施し、本邦の在宅輸血の現状と課題を把握することとした。尚、小児がん終末期の在宅輸血の実態調査について全国規模で実施された報告はなく、本邦初の試みといえる。

本年度は、大隅班から小児がん拠点病院及び小児がん終末期医療経験の豊富な在宅療養支援診療所からそれぞれ

分担者を選出できたことで、意義深いアンケート調査用紙を作成することができた。

結論

終末期小児がん患者の在宅輸血の実態を全国規模で実施するための、分担研究者を選出し、アンケート調査内容及び研究計画書を作成することができた。

E. 健康危険情報

特記事項無し

F. 研究発表

1. 論文発表

特記事項無し

2. 学会発表

岩本彰太郎、山口佳子、伊藤卓洋、花

木 良、平山淳也、天野敬史郎、豊田秀実、堀 浩樹、平山雅浩．小児造血器腫瘍患者 40 例の終末期医療の現状と課題．第 81 回日本血液学会学術集会．2019.10.12.東京

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

特記事項無し

2. 実用新案登録

特記事項無し

3. その他

特記事項無し